

### 低圧進相コンデンサ

高調波による進相コンデンサの過電流対策として、高調波が非常に多い(電圧ひずみ率が異常に高い)場合は直列リアクトルのリアクタンスを $L = 13\%$ (標準品は $L = 6\%$ )と大きくします。 $L = 13\%$ の直列リアクトルを採用される場合にはコンデンサの端子電圧が電源電圧より15%高くなりますのでコンデンサはこれに適合した製品をご使用ください。

また、 $L = 13\%$ の直列リアクトルは第3調波以上の高調波に対して、コンデンサ回路を誘導性にするため第3調波を含む高調波拡大防止を目的として適用されます。直列リアクトルの選定については108頁をご参照ください。

### 防災形乾式低圧進相コンデンサ “GeoDRY®” 400 V級 25 ~ 100kvar

オイルレス

L = 13%対応品

#### 規格・性能

設置場所	屋内用、標高2000 m以下
周囲温度	- 25 ~ + 45 (24時間平均35 以下、1年間平均25 以下)
最高許容電圧	定格電圧の1.10倍(24時間のうち8時間以内) 定格電圧の1.15倍(24時間のうち30分以内) 定格電圧の1.20倍(5分以内) 定格電圧の1.30倍(1分以内) ただし、1.15倍を超える電圧の印加は、コンデンサの寿命を通じて200回を超えないものとする。
最大許容電流	定格電流の1.3倍とする。ただし静電容量の実測値が許容差の範囲内でプラス側のもは、その分だけ更に電流の増加を認める。
容量許容差	定格値に対して - 5 ~ + 15 % (三相の相間不平衡率108 %以下)
損失率	0.15 % 以下 (at 20 )
放電特性	端子開放後、その残留電圧を3分間に75 V以下にします。
塗装色	マンセル 5Y7 / 1色
保護装置	圧力異常検出スイッチ、安全弁付き
準拠規格	JIS C 4901 (2000)

#### 圧力異常検出スイッチ接点

圧力上昇検出スイッチ接点  
 HC - HNO: ON  
 故障時 HC - HNC: OFF  
 (矢印は圧力異常上昇時)  
 作動方向を示します。)

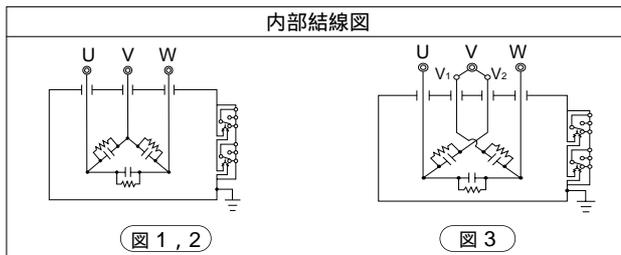
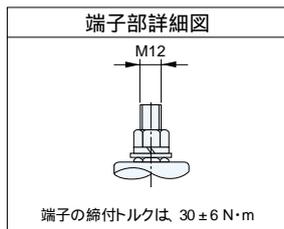
圧力低下検出スイッチ接点  
 LC - LNC: OFF  
 故障時 LC - LNO: ON  
 (矢印は圧力異常低下時)  
 作動方向を示します。)

接点容量	圧力上昇検出 圧力低下検出	HC - HNO: ON LC - LNO: ON	HC - HNC: OFF LC - LNC: OFF
	AC 250 V	1.0 A	1.0 A
	AC 125 V	3.0 A	2.0 A
	DC 100 V	0.1 A	0.05 A

端子台

圧力上昇検出スイッチの接点は、遮断器・開閉器の引き外し回路へ必ず接続してご使用ください。

ご注意  
 万一のガス漏れを検知するため、圧力低下検出スイッチの接点は遮断器、開閉器の引き外し回路、または警報回路へ接続してご使用ください。  
 接点はNO(常時開路)、NC(常時閉路)のいずれも使用できます。また、圧力異常検出スイッチの端子は上図のように端子台に接続していますので、端子台より制御線を引き出してください。  
 圧力スイッチ破損の原因となりますので、保護箱は取り外さないでください。



出荷時、V<sub>1</sub>、V<sub>2</sub>端子は専用の銅板で仮接続しています。従って、ご使用の際は必ずこの銅板でV<sub>1</sub>、V<sub>2</sub>端子を接続し、V相としてご使用ください。

#### 寸法図

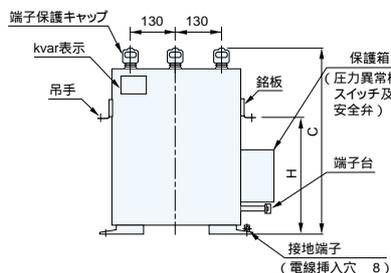
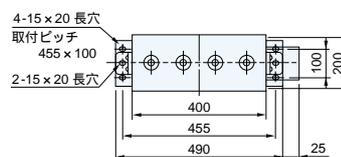
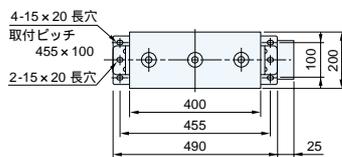
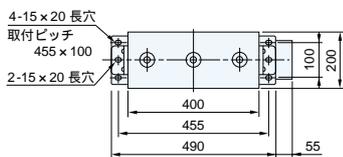


図 1

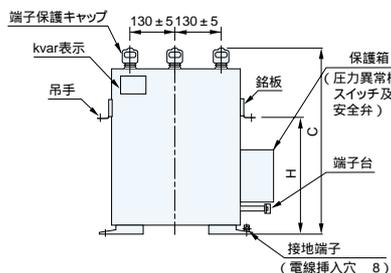


図 2

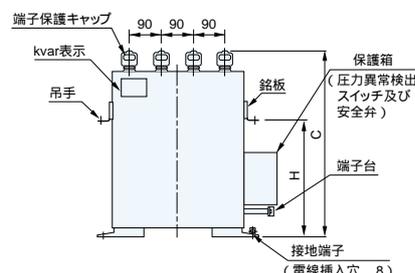


図 3

防災形乾式低圧進相コンデンサ “GeoDRY®” オイルレス L = 13 %対応品  
 400 V級 25 ~ 100kvar

定格寸法表

L = 13 %対応品 三相 屋内専用 放電抵抗内蔵 圧力異常検出用保護接点(圧カスイッチ)・安全弁付き

回路電圧 (V)	定格電圧 (V)	周波数 (Hz)	定格設備容量 (kvar)	定格容量		品番	定格電流 (A)	寸法 (mm)		質量 (kg)	図
				kvar	μF			C	H		
440	506	50 / 60	25 / 30	28.7 / 34.5	358	BF501340KC4	32.8 / 39.4	435	295	28	1
			30 / 36	34.5 / 41.4	429	BF501410KC4	39.4 / 47.2				
		50	50	57.5	715	BF501570KA4	65.6	565	325	36	1
			75	86.2	1073	BF501860KA4	98.4	695	455	45	2
			100	115	1430	BF501111KA4	131	965	675	62	3
		60	50	57.5	596	BF501570KB4	65.6	565	325	36	1
			75	86.2	894	BF501860KB4	98.4	695	455	45	2
			100	115	1192	BF501111KB4	131	835	545	53	3

- (注) 1. 集合にてご使用になる場合は温度上昇を考慮してコンデンサ相互の間隔を80 mm以上離してください。  
 2. 端子部に力が加わらないよう結線は、フレキシブルな電線を使用してください。(銅バー等による直接接続は行わないでください。)  
 3. 回路電圧400 V、415 V、460 V品についても製作しますのでご用命ください。  
 4. 定格設備容量とは、コンデンサと直列リアクトルを組み合わせた設備の、定格電圧及び定格周波数における設計無効電力を示します。(ただし、定格設備容量は銘板には表示しません。)  
 5. 本製品は、下図の通り取り付けてください。

